

湯沢CS通信

令和6年12月10日第77号

(発行) 湯沢市教育委員会
学校教育課 CS担当

熟議の実践 第二弾

湯沢西小学校の実践

湯沢西小学校では10月25日(金)、第二回学校運営協議会で、創立150周年記念事業の一環として熟議を行いました。

テーマ「ふるさと湯沢 次の150年へ」
参加者 学校運営協議会委員・PTA役員・教員・六年生児童全員

熟議の前に、(株)くらた社長と教頭先生が対談を行い、それを受けての熟議では、

①「地域のすきなところ」②「未来の地域に残したい人・もの・こと」③「未来の地域のために自分ができること」について、付箋に自分の考えを書き込み、グループで意見を交流しました。

この熟議を通して子どもたちは、自分たちが住んでいる地域のよさを再確認するとともに、地域の未来のために自分にはどんなことができるかについて考える機会になりました。また、地域の方々の温かさに触れたり、地域に住んでいる大人がどんなことを考えているかを知ったりする機会にもなりました。



湯沢南中学校の実践

湯沢南中学校では、10月29日(火)、第三回学校運営協議会で熟議を行いました。

テーマ「未来の『ふるさと湯沢』を考えよう」
参加者 学校運営協議会委員・地域の方・教職員・生徒

熟議では、①「自分が感じている『地域のよさ』」②「こうすれば地域がもっとよくなる」③「②で出たアイデアの中から『学校でできること』『地域でできること』を一つずつ決める」について、自分の考えを付箋に書きグループで協議していきましました。学校でできることとしては、次のようなアイデアが出されました。

- ・「SNSを使って湯沢のよさを発信すること」
- ・「自分たちが地域行事に積極的に参加すること」
- ・「南風タイムで、全校生徒が幅広い年代の方と交流する場・方法を考え、実際に交流すること」

この熟議の中で、興味深かったことは、生徒の口から「中学生や若者が、地域と一緒に・連携して・関わって…」という言葉が数多く出たことです。生徒には、ふるさと湯沢が抱える問題を自分事として捉え、打破していこう、共に前に進んでいこうという心情が育っていることが伺え、頼もしく感じたひとときになりました。



「学校と地域」協働の事業



このところ全国各地で地震や大雨による大きな災害が発生しており、防災意識を高める取組が求められています。そのような中で、本市の小・中学校では地域と合同の防災訓練を行う学校が増えています。その取組を紹介します。

山田小・中学校では、11月5日(火)、午前10時頃、震度6強の大地震が発生、明け方からの雨も重なり土砂災害が発生したという想定で、山田小・中合同避難所開設訓練を実施しました。この訓練には、小・中学校全児童生徒、全職員の他、社会福祉協議会、山田地区自治会、老人クラブ、福祉施設入所者など地域住民も数多く参加しました。

稲川中学校では、11月13日(水)、「地域と学校が一体となった防災まちづくり」をテーマに赤十字防災セミナーを開催しました。これは、稲川地区第二層協議体、稲川中学校運営協議会、稲川社会福祉協議会が主催したもので、大規模災害を想定し、そのときに避難所で起こる様々な出来事を「避難所運営者の目線」で疑似体験するという内容で行われました。

雄勝中学校では、12月23日(月)、生徒が主体となって行う総合防災訓練を計画しています。この訓練は、学校運営協議会、民生児童委員、社会福祉協議会、防災士の会の皆さんに協力していただき、救急訓練、救助訓練、避難所用テントの設営など体験型の訓練を行う予定です。

このような学校と地域が協働で行う取組が防災の分野だけではなく他の分野にも波及していくことで「地域とともにある学校づくり」がより進展していくものと考えます。

学校運営協議会会長からの寄稿

『感謝』子供たちは元気の源

稲川小学校 学校運営協議会会長 杵澤 繁幸

私は民生児童委員をして十九年になります。世帯数九十戸弱の農村地帯を担当していますが、子供のいる世帯は、今年六世帯だけになりました。小学校も三年前に統合し、スクールバスでの登校になりました。地域から学校が、子供が消えてしまったと感じる住民も多いようです。子供の数がなくなり、民生児童委員としても最近の高齢者問題が多く、子供たちに関わる案件はほとんどなくなりました。

また、引きこもり問題にも長く関わっておりますが、不登校だった子供が引きこもりになるケースもあり、更に今問題になっている50・80問題へとつながっているようです。この社会問題の対策に、子供から高齢者に至る一貫した支援を、地域全体で取り組んでいく時代になったようです。

そんな中、コロナ禍を経て、今年の学習発表会へは、保護者はもちろん、老人クラブの方々もたくさん来られ、とても活気にあふれていました。また、今年は、子供たちの声が少なくなった統合前の各地区に、五・六年生のグループが、元気を届けに来てくれた素晴らしい活動がありました。是非、来年はもっと多くの地域住民に元気を届けられるよう協力したいです。

限られた時間を過ごす子供たち、ご縁があつて赴任して来られた先生たちが、この地域に生まれてよかった。この学校に赴任して良い経験ができた。そう感じてもらえる地域であるように、私たち地域住民が力を合わせ、楽しく活動していきたい。

私たち地域住民が幸せに暮らしている地域で。

